

5周年を迎えたJABEE認定制度  
:現状分析と今後の展望

JABEEによる

# 大学教育へのインパクト(1)

---

掛下 哲郎

佐賀大学 理工学部

kake@is.saga-u.ac.jp

# IT・情報システムをめぐって 現状認識

## ITユーザ企業・組織

- IT業務アウトソーシングの進行
- IT能力の低下・空洞化
- IT要員の教育体系不足

## 大学(情報専門学科)

- 産業界ニーズとのミスマッチ
- 情報系学科の人気低迷
- 実務教育の不足

## ITベンダ

- 国際的競争力の低下
- 3K業界のイメージ
- 情報システムトラブル
- 人材レベルの低下

## 高校

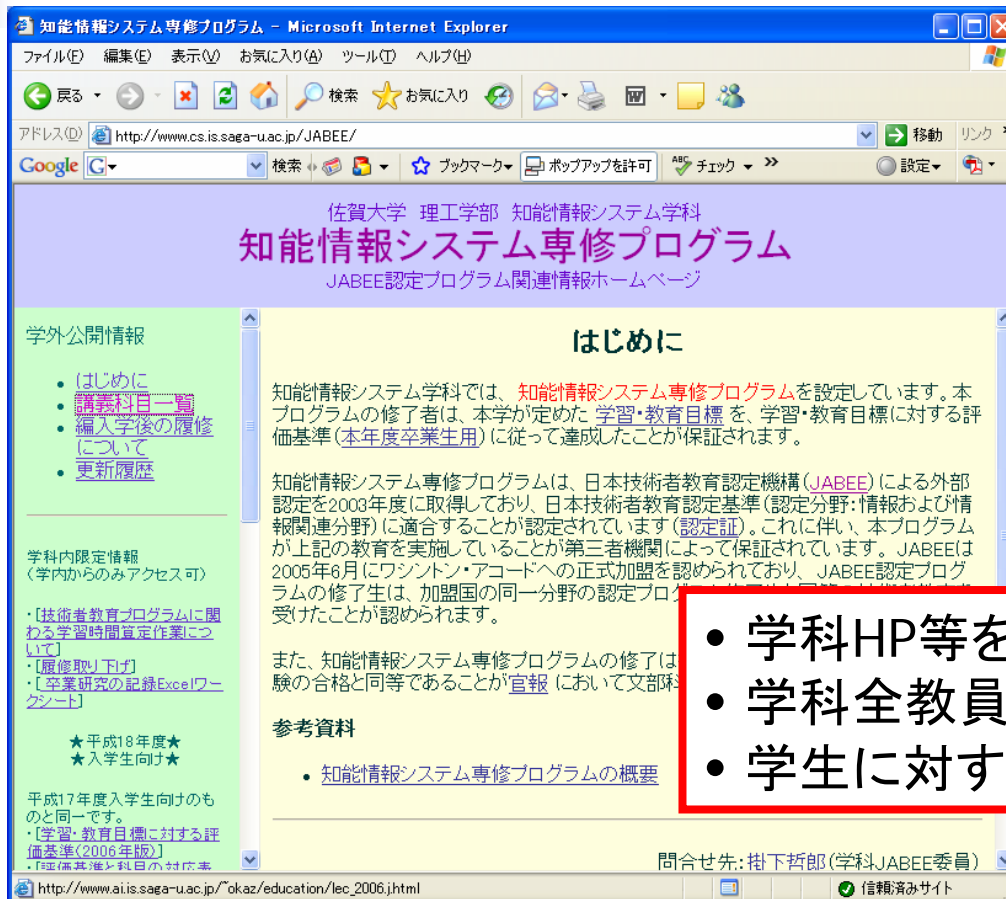
- ITリテラシに対する認識不足
- 教科「情報」の未履修問題
- 「情報」担当教員の不足



# 高度IT人材育成に関する 各種の提言

- P・F・ドラッカー著, 上田 惇生 訳、ネクスト・ソサエティー：歴史が見たことのない未来がはじまる、2002
- 総合科学技術会議、情報通信研究開発の推進について、2003
- 松原、ソフトウェア産業にもデフレがやってくる、情報処理、2003
- 日本経団連、産学官連携による高度な情報通信人材の育成強化に向けて、2005
- 中央教育審議会、新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－、2005
- 情報処理学会、日本の情報教育・情報処理教育に関する提言、2005
- 産業構造審議会、情報サービス・ソフトウェア産業維新－魅力ある情報サービス・ソフトウェア産業の実現に向けて、2006

# 教育プログラムの概要



- 教育プログラムの概要
- 学習・教育目標
- 評価基準
- 授業科目一覧
- 授業科目シラバス

- 学科HP等を通じた各種の情報公開
- 学科全教員によるFD活動
- 学生に対する組織的ケア

# 佐賀大学 知能情報システム学科 教育カリキュラム

平成18年度 学部講義科目一覧(平成15年度以降入学生用) - Microsoft Internet Explorer

アドレス http://www.ai.is.saga-u.ac.jp/~okaz/education/lec\_2006.html

## 平成18年度 学部講義科目一覧 (平成15年度以降入学生用)

各科目名は全学で公開されている教務情報システムLivaCampusにリンクされています。

知能情報システム学科(平成15年度以降入学生用)										
教養教育科目 共通基礎教育科目	単位数		授業時数						備考	
	必修	選択	1年		2年		3年			計
			前	後	前	後	前	後		
<a href="#">大学入門科目</a>	2		2						2	教養教育科目
<a href="#">情報基礎演習I</a>	1		2						2	共通基礎教育科目
<a href="#">情報基礎概論</a>	2		2						2	共通基礎教育科目
専門基礎科目	単位数		授業時数							
	必修	選択	1年		2年		3年		計	
			前	後	前	後	前	後		
<a href="#">情報数理I</a>	2		2						2	
<a href="#">情報数理II</a>	2		2						2	
<a href="#">プログラミング概論I</a>	2			2					2	
<a href="#">プログラミング演習I</a>	1			2					2	
<a href="#">プログラミング概論II</a>	2				2				2	
<a href="#">プログラミング演習II</a>	1				2				2	

- 科目名一覧
- 必修・選択の別
- 単位数
- 開講学期
- 授業科目シラバス

- 学習・教育目標
- 評価基準
- 評価基準と科目の対応表  
を活用した系統的カリキュラム

# 佐賀大学 知能情報システム学科 授業科目のシラバス

シラバス参照 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 検索 お気に入り

アドレス http://133.49.11.151/syllabus2/syllabusReferenceContentsDirect.do?nologin=on&subjectId=000300007474&formatCode

Google 検索 ブックマーク ポップアップを許可 チェック

講義概要(開講意図・到達目標等を含む)	大規模なソフトウェア製品を系統的に開発するために、ソフトウェアのライフサイクルモデルが提案されている。本講義ではライフサイクルにおける各種の技術(段階的詳細化、データ抽象化、構造化プログラミング、プログラミングスタイル、テスト技法等)を紹介する。これらの技法は、ソフトウェア開発者(システムエンジニア)にとっての必須技術である。
聴講指定	理工学部 知能情報システム学科2年生
履修上の注意	講義を休むとそれ以後の講義を聞いても理解できなくなる可能性が高いので、できる限り欠席しないこと。やむを得ず欠席する場合は、教科書の該当部分を十分に復習しておくこと。
	第1週 ソフトウェア工学とは ソフトウェア工学の目的 ソフトウェアのライフサイクル ソフトウェア技術者
	第2週 ソフトウェアのモデル化(1) プロセスモデル:ソフトウェア開発の基本手順 計算モデル:構造化技法とオブジェクト指向技法
	第3週 ソフトウェアのモデル化(2) コストモデル:Function Point法を用いたソフトウェアの開発コスト評価
	第4週 仕様分析(1) 仕様分析の目的と重要性 データフロー図(DFD) DFDを用いた段階的詳細化の事例 正規表現を用いたデータ構造の表現
	第5週 仕様分析演習 概略仕様をDFDの全体文脈図で表す。 全体文脈図の各データフローを正規表現で表す。
	第6週 仕様分析(2) 入出力設計 ユースケースを用いた仕様記述 ユースケース作成表現

- 科目名
- 担当教員
- 曜日・校時
- 講義概要
- 履修上の注意
- 授業計画
- 成績評価
- 教科書
- 参考リンク
- オフィスアワー

佐賀大学 知能情報システム学科の場合

# JABEE認定による好影響

- 第三者評価による緊張感と教育活動の改善
- 学生の学力保証
- 学科全教員による相互協力体制の構築
- 定型業務のシステム化およびそれに伴う非定型業務への注力
- 他大学や社会に向けた視野の広がり

# 文部科学省の動き

# 教育制度の改革

これらの教育制度改革にもJABEE認定制度は大きな影響を与えた

## 機関別認証評価

- 大学評価・学位授与機構、大学基準協会などが実施
- 改正学校教育法(2003～)で全ての大学に義務化(6年毎)
- PDCAサイクルの確認
- 学部単位の審査
- 評価結果の公表

## 大学院設置基準

- 2007年度施行
- 人材の養成に関する目的の公表
- 体系的な教育課程の編成
- 授業・研究指導の方法・内容・計画の明示
- 単位認定基準の明示とそれに従った実施



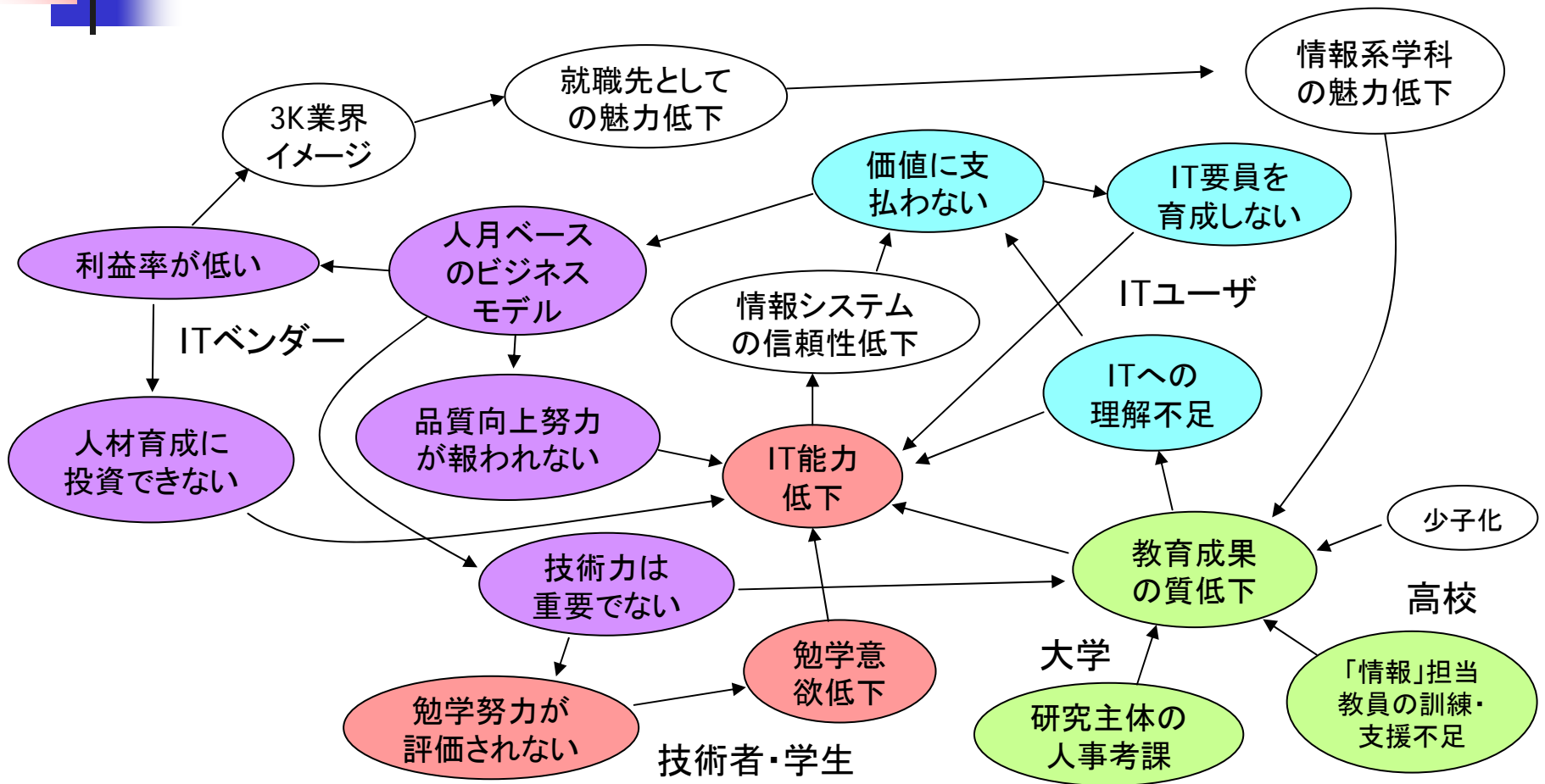


# 現状の問題点

---

- 各組織に配置されているマンパワーの不足
- 産学間の相互理解不足
  - 大学の先生は90%研究、10%教育
  - 産業界の求める人材とは？（即戦力？ 情報専門教育は不要？ IT人材に対する要件定義ができない？）
  - 訓練した学生を送り出しても活かさないのでは？
- 教育に対するイメージのずれ
  - 産業界：PBL、インターンシップ中心
  - 大学：知識・スキルを系統的に教育・訓練

# 現状の問題点





# まとめに代えて 情報産業のあるべき姿

## ITユーザ企業・組織

- 合理的ITアウトソーシング
- 企業の意識改革
- IT管理能力の向上
- IT要員の育成・報奨

## ITベンダ

- 希望の持てる会社へ
- 提供する価値に基づくビジネスモデル
- 適正な能力評価と育成

## 大学(情報専門学科)

- 教育の専門家育成・報奨
- 社会に対する啓蒙活動
- 教育システムの構築

## 高校

- ITリテラシに対する意識改革
- 教科「情報」の担当教員養成

まとめに代えて

# 情報技術者育成システム(私案)

御手洗ビジョン(経団連)

高度情報通信人材の育成目標

- 1500人/年(5年後)
- 3000人/年(10年後)

